

令和 6 年 10 月 10 日（木）

令和 6 年度 大阪府立桜塚高等学校 第 2 回 学校運営協議会

【日時】 令和 6 年 10 月 10 日（木）18:00~20:30

【場所】 会議室

【出席者】 委員：古川 知子、島村 浩司、北之坊 晋次、永井 敏輝、勝部 麗子、崎阪 治、
小川 美香

准校長：今西 良介

事務局：小西 基裕（教頭）、堺 啓介（教務主任）、大矢 征礼（進路指導主事）、
室津 敬一郎（事務主査）

【議事等（次第順）】

1 准校長、会長 挨拶

2 報告

- （１）学校経営について
 - ・学校経営計画進捗状況
 - ・定時制高校の現状について
 - ・授業アンケート（７月）結果
- （２）教務部より
 - ・在籍状況、選定教科書
- （３）生徒指導部より
 - ・各種アンケート結果、部活動・行事
- （４）進路指導部より
 - ・進路状況
- （５）事務部より

【議事（報告事項）】

（１）学校経営について 学校経営計画進捗状況

○「めざす学校像」について

准校長：年齢やルーツ、過去の経験が異なり、さまざまな背景を持ちながらも生徒たちは元気に登校し、学校生活を送っている。特に、入学してすぐの半年間は友人間の小さなトラブルが発生しやすいが、次第に適度な距離感を取れるようになり、お互いを尊重し合う関係が築かれている。

○確かな学力の育成と「生きる力」の獲得

（外国籍の生徒の現状と日本語指導について）

准校長：本年度も外国籍の生徒が 5 名入学（ネパール籍 4 名、中国籍 1 名）した。

ひらがなも読めず、英語の理解も十分でない状況であり、これらの生徒に対して日本語指導を毎

日 0 時間目に実施している。日本語指導を始めてから半年が経過し、今後は習熟度別に個別対応を進める予定。

（評価について）

准校長：評価手法に関しては、一定の理解と基準が確立されつつある。

ただし、評価のために課題が増え、生徒や教員にとって負担が大きくなっているケースがあり、評価のための過剰な課題の見直しが必要である。

○未来の創造に向けた希望と意欲を育む支援体制の確立

（個人情報保護についての研修の実施）

准校長：教職員向けに個人情報保護に関する研修を実施した。「つい、うっかり」の失敗が個人情報漏洩のリスクにつながることを改めて注意喚起をした。

（生徒支援体制）

准校長：学校内での支援は、教員やスクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）、居場所事業者と連携し、学校が「居心地のよい安心できる場所」であることを意識している。生徒の困りごとは、しばしば家庭や保護者の困難な状況に関連している。必要に応じて、SSW を通じて行政と連携し、解決に向けた支援を行っている。

（高校卒業後の自立支援）

准校長：小中学校で様々な配慮を受けてきた生徒たちが、高校卒業後には社会で十分な配慮を受けられない現実。高校生活中に「自分の強みと弱みを認識し、強みを仕事に生かせる力、弱みをカバーする力」を身につけさせ、卒業後に自分の力で生活ができるための力を高校生活の中で身につけさせられるよう試行錯誤している。

委員 B：資格を取らせてみてはどうだろうか。今年度実施している「介護初任者研修」は生徒にとってハードルの高い研修であり、この研修を最後まで取り組める生徒は忍耐力・継続力のある生徒に限られてくるだろう。そこまでいけないような生徒達でも取得できるような資格があればよいと考える。

○校務の効率化と働き方改革の推進

准校長：教職員の時間外在校時間（残業）は非常に少ない状況で推移している。

一方で、日本語指導が必要な生徒や「困りごと」を抱えた生徒への個別対応には時間がかかり、ケアの必要性が年々増加している。今後も人員の確保を続け、教職員一人一人の負担軽減を図る。

○開かれた学校運営と地域連携

（情報発信）

准校長：ホームページのリニューアルが完了し、准校長ブログを中心に、中学生が夜桜入学後の生活を具体的にイメージできるような情報を提供している。大阪府教育庁からは、中学生に対して高校生が SNS で学校 PR を行う提案があったが、夜桜では生徒情報の取扱いに慎重を期し、SNS は使用しない方針。

（地域連携）

准校長：豊中市社会福祉協議会と連携し、「介護初任者研修」を生徒向けに実施。講習費用の負担を軽減し、テキスト代 2000 円のみで受講可能とした。現在、8 名の生徒が受講中。また、社会福祉協議会から、食糧支援も継続的に提供していただいております、提供された食糧は准校長ブログで紹介している。

委員 E：桜塚高校には、ヤングケアラーの生徒たちが多くいる。彼らが日頃行っていることが仕事へとつながるきっかけになるようにと願い、介護初任者研修を実施している。受講生の生徒たちは非常にまじめに受講してくれている。長丁場の研修で大変ではあるが、受講者の生徒たちが継続して研修に励めるよう支援していきたい。

委員 A：初任者研修の期間は？

委員 E：3 か月ほど実施する

委員 F：スクーリング？通信？

委員 E：対面式と現場実習を行う。受講者の生徒たちは施設などで研修をした後に学校に戻り、授業を受けているので大変だと思う。

○教員の資質向上

（本年度から教科別交流会を開始）

准校長：定時制高校全体で、教科別の交流会が本年度よりスタート。定時制高校では「ひとり教科」が多く、同じ教科の専門的なアドバイスを受ける機会が限られているため、他校の同じ教科の先生方と情報交換を行う場が設けられた。

（他校の見学）

准校長：夜桜では、本校では実施していない他校の取り組みを見学し、教員の資質向上のために小さな取り組みを続けている。

委員 F：他校へ行かなくとも桜塚高校全日と連携すればよいのではないかな？

准校長：定時制の特殊な授業時間（35 分 or 45 分）のなかでどのように授業を展開していくのか。“小中学校での学びなおしが必要な生徒”と“学力の高い生徒”がいる中で、習熟度別の授業を一つの授業の中でどのように展開していくのか。これらの課題を改善するためにも、同じような現状にある定時制高校の間で連携・情報共有したほうが様々なノウハウが得られると考える。

委員 A：どの定時制高校と連携しているのか？

准校長：定時制・通信制全体として取り組みを実施している。

（1）学校経営について 定時制高校の現状について

○オンライン出願の導入

准校長：今年度から高校入試前の出願がオンライン化された。高校側は出願書類の電子化を歓迎しているが、中学校側は初めての試みであるため、サポート体制に不安を抱いている。中学生とその保護者が情報を入力し出願手続きを行う必要があり、個別サポートがどれだけ必要になるか見

当がつかない状態である。特に、ネパールの生徒が多い本校において、日本語以外の言語対応が不十分であることが問題視されている。教育庁は日本語以外の対応を行う予定だが、マンパワーの不足が懸念されている。

委員 E：家庭への負担、学校側の仕事の複雑化が懸念される。

○私立高校の授業料無償化の影響

准校長：今年 6 月の進路希望調査によると、大阪府全域で私立高校専願希望者が前年より約 4%増加している。特に南大阪地域では中学生の数そのものが大きく減少しており、定員割れの問題がさらに深刻化する見込み。

○合同学校説明会の開催

准校長：定員割れ問題に対処するため、中学校の進路指導担当者を対象に、9 月 30 日に合同学校説明会を開催。豊能地区の中学校の教員 40 名以上が参加し、8 つの高校がそれぞれプレゼンテーションを行った。

○入試改革について

（公立高校入試の時期変更）

准校長：大阪府の公立高校入試改革の一環として、令和 10 年度から入試時期を現在の 3 月中旬から 2 月下旬に変更することが検討されている。中学校側は、この変更について難色を示しており、影響を懸念している。

（定時制高校の入試について）

准校長：定時制高校における学力検査の必要性について議論が行われているが、具体的な方針はまだ決定されていない。

○学校再編について

准校長：新たに大正白稜高校と堺市の福泉高校が募集停止を発表。西野田工科高校は今宮工科高校に機能統合され、西野田工科の定時制は今宮工科の定時制と統合される。これにより、大阪府内の定時制高校は 1 校減少することになる。現時点では他の定時制高校に関する統廃合の計画はないが、教育庁は定時制の重要性を認識している。

委員 F：全日制では 3 年連続定員割れになった高校が廃校になるという例が多く存在する。例えば桜塚高校全日制が廃校となった場合は定時制もつられて廃校になるのだろうか？

准校長：3 年連続で定員割れという理由だけでは廃校になっていない。様々なデータに基づいて判断しているため、急に廃校になるようなことはないと考えられる。もし仮に全日が廃校になった場合は、定時制も廃校になると予想される。

（1）学校経営について 授業アンケート結果について

准校長：結果として、この５年間はあまり大きな変化がない。このアンケートは生徒自身の取組を自己評価する項目と、教員の授業展開や教材活用に関して評価する項目がある。今後は教員の取組部分を底上げすることで、生徒意識も向上させるよう、教員間の授業見学とそのフィードバックを通じて各教員の授業力向上をめざす。

委員 B:桜塚高校の先生方が、何も施策をとっていないことはないと思うが、この五年間、授業アンケートの結果はほとんど変わっていない。評価の高い項目は変わらず高い状態を維持できている。一方、二つのアンケート項目（生徒の意識１、生徒の意識２）が五年間全く上がらない状態が続いている。

（２）教務部より 在籍状況、選定教科書

○生徒在籍について（資料 3-1・別紙）

教務部長：１年生は転学２名、退学１名。２年生は編入１名、退学２名。３年生は転入２名。４年生は退学１名。年度当初と比べて６名減少している。

○教科書選定（資料 3-1・別紙）

教務部長：使用教科書については資料の通り。教科書選定における観点も資料の通り。

全日制においては今年度からすべて新カリキュラムに変わっているが、定時制においては、次年度すべての学年が新カリキュラムに変わる予定。

（３）生徒指導部より 各種アンケート結果、部活動・行事

○生徒指導の状況

（指導について）

教頭：前期に生徒指導の対象となった事例は合計４８件。主な内容には授業中のスマートフォンの使用や授業の中抜けが含まれる。昨年度は中抜けを繰り返す生徒が一部存在したが、現在は担任や生徒指導部からの注意により中抜け行為はなくなった。

（特別指導について）

教頭：喫煙、飲酒、教員に対する暴力行為を行った生徒に対して停学等の特別指導を実施。特別指導を受けた生徒に関しては、今後同様の行為を繰り返さないよう学校全体で注視していく。

○学校行事について

（球技大会について）

教頭：全クラス対抗でバレーボール大会を開催。今年度は特に１年２組が健闘し、上級生を破り、３位決定戦まで進出した。決勝戦は３年生同士の対決となり、大いに盛り上がった。

（体育祭について）

教頭：今年度、新しい試みとして球技大会の一環で体育祭を実施。自治会・自治生徒会が種目の検討や

ルール設定に関与し、フリースロー対決、玉入れ、ボール送り、ピンポン玉運びの4種目をクラス対抗で行った。自治会自治生徒会が当日の司会進行も行った。教員が主導するのではなく、生徒が中心となって実施できた行事であった。

（文化祭について）

教頭：1日目に舞台発表、2日目に各クラスが飲食模擬店やゲーム縁日を行う。舞台発表にはダンス部や学年有志によるダンス発表が4件、空手道部による発表もあり、どの発表も日頃の練習の成果が感じられるものとなっている。

○介護研修の実施

教頭：豊中市社会福祉協議会の協力で、本校生徒が介護初任者研修の資格を取得できる講座を実施。教材費は2000円のみで、夏休み前から担当者が直接生徒に説明を行い、興味を持った生徒8名が受講している。研修期間は10月から12月で、全ての生徒が資格取得を目指して頑張ることを期待している。

○いじめ等アンケートの結果

教頭：いじめ等アンケートの質問は全部で11問。質問に対して『はい』と答えた生徒がいた質問のみを一部抜粋して資料に掲載している。アンケート実施後は、校内でいじめ対策委員会を開き対応を検討した。まずは、質問に対して『はい』と答えた生徒全てに対して担任から聞き取りを行い、聞き取り結果をいじめ対策委員会で共有した。聞き取りの結果、多くの生徒は「過去に不快な出来事があったが、現在はすでに解決しており、学校に望むことは特にない」ということだったが、指導の必要がある件に関しては、担任といじめ対策委員会にて対応し、現在は生徒の様子を見守っている。第1回アンケートは6月実施であり、第二回いじめ等アンケート11月に実施する。

（4）進路指導部より 進路状況

○進路状況について

進路指導部長：卒業予定生徒数が39名おり、例年に比べて10名ほど多くなっている。3年生の通信を受講している生徒も1名含まれる。進路希望内訳は、就職が23名、進学が12名、未定が4名。

就職希望23名のうち、9月17日の一次募集で応募した生徒は10名ほどで少ないが、年度末までしっかりと1人ずつ指導していきたい。

進学希望12名のうち、大学進学希望が4名、専門学校希望が8名となっている。現時点で応募している生徒の希望職種を資料に掲載している。10名受けた者のうち、5名が内定を獲得し、5名が内定を頂けなかったという状況。スーパー、カー用品店、家電量販店、郵便、製造にそれぞれ1名内定した。1次の時点で内定を頂けなかった生徒については1次と同じような職種を受ける生徒もいるが、もう一度自分の適性などを考えたうえで再挑戦することもあるので、担任と連携しながら指導をしていきたい。就職以前に、卒業することを優先して頑張っ

もらいたい生徒もいる。

委員 A：就職希望をしている残りの生徒は、今後どのような流れで就職活動を展開していくのか？

進路指導部長：現時点で求人は十分にある状態。しかし、卒業が危ない生徒もあり、その生徒に関してはまず学業を専念できるように指導していく。見学には行ったが、受けるところを決めきれてない生徒に関しては、二次募集に向けて取り掛かる生徒と一緒に指導していきたい。

（５）事務部より

事務主査：照明が半分ほどきれてしまっている。ここ数年補修できていない。全日制の事務担当者が教育長に要望をあげている。ほかの設備の補修が優先され、グラウンド照明には手が回っていない現状。授業や部活動に支障が出るため、強く要望していきたい。

委員 B：学校運営協議会から、教育委員会へグラウンド照明の件について要望を出すことはできるのか？

委員 C：要望を出すべき。教育長へあらゆる方法を模索するように要望を出してもよいのではないだろうか。